

佳作

僕は僕らしく、自分が選んだ環境の中で

新潟県立長岡聾学校

1年 藤崎 湊

教室には自分の机と椅子が一つだけ。このような環境で僕は小学3年生の1年間を過ごしました。

僕は0歳の時、長岡聾学校の乳幼児教室に入りました。幼稚部のときの同学年は、本校・分校合わせて8人。授業は賑やかで楽しく、放課後もみんなと一緒に遊んだ思い出があります。しかし、小学1年生になった時、もう一人の男子と二人になりました。8人から一気に二人に減って驚きました。皆地元の小学校に進学したのです。僕は二人で楽しくやっていけるのかなと少し心配でした。しかし、二人でも楽しく話ができたし、授業や係仕事も二人で協力してできたので案外二人も楽しいなと思っていたのです。ところが、3年生になった時、その友達も他校へ転校してしまいました。それで僕はついに一人になったのです。担任の先生が教務室に忘れ物を取りに行っている間、窓の外の木の葉っぱを見ながら一人でぼんやり考えました。「なんで転校しないの?」と聞かれたことがあったな。しかし、僕は転校したいなんて考えたことはありませんでした。理由は二つあります。

一つ目は居心地が良くて安心できることです。聾学校は、先輩も後輩も先生も皆優しいです。3歳から20歳までの生徒が通う聾学校は、まさに大家族です。さらに僕は4歳から寄宿舎に入っていて、みんなで遊んだり勉強をしたり、たまにはけんかがあったり、家に帰りたいたいと思ったりすることもあります。僕はこれまで生きてきたほとんどの年月を過ごしている聾学校が好きです。そして、二つ目の理由は、一般の学校に転校すると、僕は耳が聞こえないのでいじめられるのではないかと思い、それが怖かったからです。1回転校してまた聾学校に帰ってきた友達に聞いてみると、クラスの友達が話している内容が分からなくて「えっ? えっ?」と返すと、友達は諦めてしまって話ができなくなるのがつらかったそうです。転校でつらいことは、勉強が分からないことでも、先生の話が分からないことでもなく、友達の話についていけないことだと聞きました。僕は小学3年生まで児童クラブに通っていましたが、友達の話が聞こえなくて、何回も聞き返した時、その友達から「なんでしっかり聞いてくれないの。」と言われたことがあります。その時、難聴だから仕方ないじゃんと思って悲しかったことを思い出しました。もちろん、転校はメリットもたくさんあるでしょう。友達がたくさんできること、放課後や休み時間に大勢で遊べ

ること、そして違う考えにたくさん触れることができることなどです。しかし、僕は思います。一人学級なんて、こんな体験ができる人は世界でも少ない、確かに最初の頃は先生と1対1で緊張したし、寂しかったけれど、だんだん慣れて僕はこの環境を楽しんでいると。一人のメリットもいろいろあります。まず、一人なのでやりたいことができます。総合や学活で砂鉄集めなどの少し遊びっぽいこともすることができました。また、いつも先生方と一緒になので何でも手厚く教えてもらえました。日本の平均的な1クラスの人数は34人に担任1人だそうです、それだと1日の中で個人的に先生と話すことなどあまりできないのではないのでしょうか。授業のペースも全体に合わせて早く進むだろうし、一人一人に教えてもらえないし、質問もたくさんすることができません。それが一人学級だと疑問に思った時にすぐにたくさん質問できる上に、一つ一つゆっくり教えてもらえるのでとても分かりやすいです。デメリットは三つあります。一つ目はいつも一人なので居住地校交流などで人数が多いクラスに行くととても緊張することです。二つ目は係の仕事が大変です。先生も協力して下さいますが、一人なので係の仕事を全部やります。三つ目は寂しいです。短い休み時間に、先生を教室で一人で待っている時は寂しかったです。しかし、僕は先生と楽しい話をしたり、休み時間に他の学年の友達と遊んだり、寄宿舎の行事に積極的に参加したりして寂しさを乗り越えました。

しかし、これからはこのままではいけません。僕は将来、電気屋になって商品を作ったり、紹介したりする人になりたいので、大学進学を目指して、プログラミングや普通科の勉強が多人数でできる県外の聾学校を目指しています。

僕は今の少人数のメリットを最大限に活用しながら将来のために力を付けようと思います。そして、これからの人生は自分で決めなければなりません。家族から離れる県外への進学や企業への就職は僕が選んで僕が決める僕の道です。僕は僕らしく、これまでさまざまな環境に順応してきたように、柔軟かく、そして強く生きていきたいと思います。ちょっと不安もありますが、とても楽しみです。